絳老餘算統術

上下合冊

全

302
合
86

始

絳老餘算統術

寫本

松永良弼編

上卷

302/2
86

絳走餘算統術

上巻（寫本）

臣　松永良弼奉敕編次

仰松軒君撰

山路主住同校

歸除式

一銀三拾六匁七分有半弐人ヨリに上ル下ル之匁幾ホ

各何程ヅヽ

答曰上弐拾匁壱人　下拾六匁壱人

昭和一〇・廿一・三

答曰上格金参匁 中格銀弐匁参分 下格壱匁三分

術曰下の銀壱匁かへて中の銀之中の銀壱匁

かへて上の銀之上中下の銀を備て云銀之

一銀三格之内九分を四人まる次第まる銀八分宛おとる

者何程の問

答 一番格金参匁 二番九匁六分五厘

三番八匁八分 四番七匁九分五厘

術曰下の銀を累かして一番まる四人

の銀お係て却銀をもとめ

一銀三格九匁者三人まる上分中分弐匁宛る中分下

七分おとる 者何程と問

答曰上格四匁七分 中格弐匁参分 下格壱匁八分

術曰下の銀七分かへて中の銀之中の銀を弐匁参分て

上の銀之上中下の銀を備て却銀をもとめ

一銀三百目を五人まる次第まおとる多日数有 但

七ヶ年 五番目八格金参匁分し者何程と問

答曰　一番九格五文　二番七格七文　三番五格九文
四番四格七文　五番弐格三文　六番五文

御問未人の銀と答銀を加へて十番銀成る未人の
銀かくの人数を新術にて抜銀と成

一銀三百目有五人より次第に三文もおとる各の格目

答曰　一番六格六文　二番六格三文　三番六格文
四番五格七文　五番五格四文

御問未の五銀と答銀を寄加へて各五銀を得
五人の銀を供へて抜銀なり

一銀三百目を五人より一から二、弐乗る一から三、五乗表
三百目を格五乗表弐格弐文おとり各の格目

答曰　一番七格五文　二番七格三文　三番六格八文
四番五格三文　五番三格七文

御問五番の五銀より弐文加へて四番の五銀と四番より
五銀より格五文加へて三番の五銀と三番より五銀より
加へて二番の五銀と二番の五銀より弐文加へて十番

永銭七百人の銭を係て拾一銭
一銭三百五拾文を三人に分る次第に米数を積り
各何程に成
答曰一貫弐百文　二貫百文　三貫六拾文
御問二貫の銭を拾に成二貫の銭を
拾に成二貫の銭を拾に成三人の銭を係て拾銭
一銭に付四文を次第に倍増て五人に分る
各何程に成

答曰　二貫四拾文　三貫八拾文
四貫百六拾文　五貫三百拾文

一銭四百に拾弐文を三人に分る内中四分の三永中の
五分の三を下の永銭とし各何程に成
答曰上弐貫拾文中百六拾七文五分下九拾四文五分
御問上の永銭を四に分る内三を分る中の永銭を
銭を五に分る三を分る中の永銭を係て
係て拾銭に成

一銀三百目を六人なる人の銀を五分の三ずつ次第の差銀を受取の銀いふ

差曰 壱番人 拾匁 弐番六拾八匁 三番五拾六匁
四番四拾四匁 五番 拾弐匁 六番弐拾匁

術曰 末人の銀(六番也)前の銀を五隔ずつ三を乗ずつ次第の差銀とす末人の銀ずつ累加ずつ六人の銀なる六人の銀を併て惣銀とす

一七人まで次第隔の銀なる一番弐番の銀併て

七拾七匁又五番七番の銀併て七拾五匁之名何法問

差曰 一番四拾匁 二番拾七匁 三番六拾四匁 四番六拾匁
五番弐拾八匁 六番弐拾匁 七番弐拾匁 差三匁宛

術曰差銀を加へて七拾七匁とかへて打消て一番の銀を除る差銀を累減して各七人の銀を得る

五番七番の銀を併て七拾五匁とする也

一銀三百弐匁を以七人不五人なる以七人い甲分次第する銀弐匁宛少一下五人いる次第する銀三匁宛少一甲分

子い門或割裏りて各何程ぞ

答曰 甲廿四文 乙廿弐文 丙廿文 丁十八文
戊十六文 己十四文 庚十弐文
子十七文弐分 丑十四文弐分 寅十弐文弐分
卯十六文弐分 辰十弐文弐分

術曰下の未人辰巳の銀は三文を累加して子は五
五人の銀を併て小き組五人の銀高の銀を八分
内式割皆の法に倣て除く甲の内銀と高弐文を累減して庚は五人
の銀を併て上一組の銀と高下一組の銀を併て拙法とする

一或人酒を持て花見るとき 三斗四升飲む其残りは一倍を
加へて納涼に三斗四升飲む又其残りは一倍を加へて
月見るとき三斗四升飲む亦残りは一倍を加
へて事に遇ふ三斗四升飲む酒皆尽る
元の持酒何程ぞ

答曰六斗六升七合五勺

術曰持酒を置て 花に三斗四升減じ残り一倍して
涼に三斗四升減じ残を一倍して月に三斗四升減じ又

其餘を一倍して書き三斗四升減じて丙比を求む

一銀三百目を三人に分ち上の中に門式剣表り中かい指数

表りて各位の値いは

答曰上百弐拾文　中九拾六文　下八拾四文

術曰下の銀より拾弐文加へて中の銀を作り八分門式剣

に隔て上の銀と中下の銀を併て拾弐

一銀六拾壱文を三人に分ち次第に外弐剣表りて各位の値は

答曰上廿六文　中廿五文　下拾六文

術曰上の銀を一個弐文外二剣表の法に隔て中の銀と任中の銀

を一個弐文に隔て下の銀と任中の銀を併て拾弐

一銀七拾文有四人に分ち次第に門式剣表りて各位の値は

答曰甲廿五文　乙拾九文弐分

丙拾四文四分　丁拾文八分

術曰甲の銀に七分を加へて乙を求め乙丙丁の銀を以て

四人の銀を併て拾一銀とす

一銀五百三拾文を三人に分ち上の中門式剣表りて

外武割裏り之三人者の組下問

答曰上或百目　中百八拾目　下百五拾目

術曰上の銀より九分口割裏の法を以て中の銀を上等

或る外武割裏の法より除てその銀を上中下の銀を備て其銀之

一銀三百目を立組る上一組八人中一組七人下一組三人之上八人

の立銀が中之人の立銀い高かし中之人の立銀が下之人の

立銀い之如るかし者の組い何

答曰

上之人拾九匁五分　中之人拾匁五分

下之人拾七匁

術曰下之人の銀より之如るかへて中之人の銀より中之人

の銀より之如かへて上之人の銀より者之人の銀より之得の

人数を寄て互に相備して其銀なり

一銀七拾七匁を三組る上之組七人中之組五人下之組三人之

上之人が中之人ハ外之割裏り中之人が下之人ハ内之割

裏りなり者之人の立銀の組下問

蓋上等人家多 中等人亡多 下等人四多亡多

術曰中等人の銀を一筭等外等剰の法を多部に上等人の銀と中等人の銀と九多中等剰の法を多部にて下等人の銀と各等人の銀に等人数を多部に相併て其銀を以組る上中下の身等番の銀高等し

一銀百目を三組る上中下の身等番の銀高等し

三組各人数也上次身に内等剰裏中次身る外等剰場下次身る銀八る。八束裏人各の銀の内

上甲四枝目 乙九六多 丙卅弐多四分
中甲四枝目 乙四枝四多 丙四枝八多四分
下甲四枝目 乙九九多三多 丙卅八多三多九八四
丁卅七多五九七六 戊卅六多七九六八

術曰上の甲則一七多乙九多の中等剰を以て戊乙を相併て上等剰の銀高を以て上の甲則中の甲乙故上等を乙て

一筭等外等剰の法を部に戊乙を中等組の銀高

位下等上の甲を又下の甲を銀八る。年を黒減て

戊乙を以て相併て下組の銀高 位下等 上中下等

位の銀を相保てあつかう

一銀七百目を式人に借りて式割ハ年割歩の利を加へて

各利銀問数は成る各元銀何程ハ問

答曰元三百目 ハ元四百目 利銀各六拾目

術曰問数の利銀を重く式ハ式割ハ年割歩

割に隔く各元銀に成る相保て銀也

答の法問皆生年一位求る事

故に術を略す

一元銀百九拾貫を五人に借りて式割ハ年割

の利を加へて返す時元利の和ハ問数元銀を問

答曰元銀弐百八拾貫 ハ元銀三百拾貫

各元利合三百五拾貫 ハ二百七拾貫

一銀百目を式割ハの利を加へ何年まで利銀我が百

匁に成ハ問乃利を加へる

答曰四年まで利銀百目

一ハ年を式割ハ年割の利を除く元銀問数を借る

或人元利併て壱貫三百拾八匁之者元銀利限何程哉

答曰 元銀壱貫六拾目　上利銀百拾弐匁
　　下利銀八拾四匁

一上者弐割宛之利銀を借候元銀幾程哉

答曰 元銀百拾四匁宛　上利銀二匁八分
　　下利銀七匁七分

一上弐割宋中者弐割下ハ壱割の利を加へ元銀併て
五百八拾九匁借入三人利限幾程之者元銀何程哉

答曰 利銀者此壱匁宛　上元銀百弐拾四匁
　　中百五拾壱匁　下三百拾六匁

一上者三割宋中弐割下ハ壱割の利にて元銀併て四百三拾
壱匁借候返時上元利和三人皆同数ニ者元銀の程いか

答曰 上元銀百拾弐匁　中百四拾壱匁　下百五拾六匁
　　元利和者百七拾壱匁宛

一上ハ弐割下ハ壱割宋の利を加へ利銀同数ニ成候し

上かた元銀壱拾貫毎一年元銀何程下ル

若し上元銀百六拾貫　小式百式拾貫

一元銀三百六拾四匁備ゝ式割の利を加へ毎年回数ゝ

三年ゝ元切ゝ毎年何程下ル

若し毎年百七拾式匁八分宛

御用元切銀を雲て寅ゝ一番式番の割を引隠ゝ二年の銀高

元切銀を加て一番式番ゝ隠ゝ初年の銀高元切銀を加ゝ

一番式番ゝ隠ゝ元銀ゝ成　又元銀を雲て一番式番を第一

内元銀を減て初年の銀高ゝ一番二分を第て内元

切銀を減て銀を二年の銀高ゝ一番二分を第て元切銀ゝ成

一元銀百七拾壱匁備ゝ式割の年ノ利を加ゝ毎年回数

四年ゝ元毎年何程下ル

若し毎年式百五拾九匁式分宛

御用元銀ゝ一番二分を第て内毎年の元銀を減て初年の銀

ゝ成ゝ一番二分を第て内毎年ノ元銀を減て銀高ゝ成ゝ又言

二分を第て内毎年の銀を減て三年の銀高ゝ成ル　又

一、二、を除て別毎年の銀と成べ

一、元銀買戻者整理及を二割の利を加毎年賦を毎年の銀に

若日毎年一貫宛を整理及式を定

御日元銀と一、二、を除毎年の銀を皆減する事

四年目に元銀を以て又毎年の銀残存する

弘化三丙午年閏五月吉辰再写　倉持貞固

絳走餘算統術　上巻　終

302
2
86

昭和十年五月十三日印刷
昭和十年五月十三日製本
昭和十年五月十七日発行
東京市荏原區小山町八十六番地
発行編纂兼印刷人　澤村寛
東京市荏原區小山町八十六番地
印刷所　澤村寫本堂印刷部
東京市荏原區小山町八十六番地
発行所　澤村冨羽本尚工

落